

**令和8年第1回姫路市議会定例会（未定稿）**

**令和8年3月5日（木）**

**○松岡廣幸議員（登壇）**

長丁場でございます。ぜひ、最後までよろしく願いをいたします。

通告に基づき、以下3点の課題について質問をいたしますが、昨今の財政の厳しさから、片や、新規の施設建設には収支バランスの鋭い目を向けながら、もう片一方では47億円という土地からを購入する巨大プロジェクトを実行し、家賃ゼロで売上げベースの支払いという、数字の上からではとてもではありませんが、収支の取れないと考えられる事業の推進が行われております。

このような観点から、私は摩訶不思議に思うこと、分かりやすくお尋ねいたしますので、ご答弁も市民の皆様の納得のいくような簡潔明瞭な形でお願いを申し上げます。

まずは屋台会館について、昨年12月議会で、コンサルに基礎調査をさせるとのことでしたが、その調査を受けて、これから進めようとする具体的なことをお聞かせください。

基礎調査が出てきたのが昨年12月16日ということでございますが、それから本日で約2か月が経過をしております。

この間、様々に調査書を読み込まれておられると思いますが、この調査書に不足しているものがあるとしたら何でしょうか、お教えてください。

また、2月10日には予算説明会も開かれましたが、この屋台会館の基礎調査が出れば、先般の9月議会でご回答もいただきましたんですけれども、議連や屋保連との様々な打合せをこれから推進していく考えがあるというようなことでもございましたので、具体的な令和8年度の予算の中のどの項目に打合せを進める等の予算が入っているかお示ください。

平成15年に提出されました提案書との大きな違いを感じられたかどうかの質問なんです、当然のことですが、このたびの基礎調査報告書と23年前に提出された当時、屋台文化保存連絡会及び姫路青年会議所の提案書を読み比べていただいていると存じます。

では、どちらも熟読されて、その中身についてと違いが大きいということであれば、それらをお示しをいただきたいと思っております。

そしてまた、この3月末をもって閉館となる書写の里・

美術工芸館をはじめとして、これまで姫路市で大きな赤字となっている施設の共通する失敗原因はどのような事業が主軸となっているのでしょうか。

これまで質問等のヒアリングでも私は矛盾を感じたのでございますが、いわゆる企画段階では、原局、所管局にある程度任せて事業を進めると。そして、施設が完成すると、その後の運営の収支バランスの悪さによって閉鎖等を行うと。それを財政局なり、また政策局なりが指図しているというようにもお見受けできます。

それなら最初から、市の内部で俎上に乗せて、徹底した収支バランスを財政局や政策局等が当該所管局と一緒に、最初から各方面より多角的に見る。そして、協力して、深い予測と慎重な判断をするようにすれば、まだ幾分ましな結果になるのではと、私もよく思うわけでありませぬ。

いや、そうじゃないんです、事業実施まで所管局にやらせることが失敗の原因ではない、ほかにもこういうものがある、こういった目に見えないものがあるということであれば、ぜひお示しいただきたいと存じます。

これで、私の第1問を終わらせていただきます。

**○石堂大輔議長**

山本政策局長。

**○山本 聡政策局長**

お答えいたします。

調査結果を受けての今後の進め方についてでございます。

地域文化継承事業に関する基礎調査におきまして、祭り文化の保存継承、地域コミュニティの活性化、シビックプライドの醸成など、施設を設置する目的によっては、引き続き検討を深める必要がある、そういう結果が出ております。

その結果を踏まえまして、屋台文化保存連絡会など関係者のご意見も参考にしながら、祭り文化の保存継承を目的とした施策について、継続的に検討してまいりたいと考えております。

それから、基礎調査に不足しているものは何かというご質問ですけれども、今回の調査は、施設整備の実現可能性や、仮に施設を整備する場合の方向性あるいは施設案をまとめることを目的として実施しております。

その中で、祭礼に関する現況や姫路市の関連政策、あるいは類似施設の状況等について調査を行っておりまして、

調査項目としては十分であったものと認識しております。

また、今後の検討についてでございますが、個別の予算措置はしておりませんが、令和8年度予算の範囲内で対応可能であると考えております。

それから、先に提出されました提案書との大きな違いについてご質問いただきました。

提案書と基礎調査結果の内容についての相違点を挙げるといたしますと、提案書は施設整備を前提として作成されております。施設のコンセプトや展示概要、候補地等を含めた具体的な施設整備案が記載されております。

一方、基礎調査は、先ほど申しましたとおり、施設整備の実現可能性の検討を行うために実施しておりますので、候補地は特定せず、その前段階の施設規模に応じた施設機能、あるいは施設整備費、運営費等のコストを比較している点で、あるというふうに考えております。

それから、大きな赤字となっている施設の失敗要因ということでご質問いただきました。

開設から相当の年月が経過いたしまして、施設を取り巻く状況が大きく変化したことに伴って、利用率が継続的に低迷している施設あるいは当初の設置目的と市民のニーズが乖離してきている施設等につきましては、在り方検討を行うこととしております。

その検討に当たっては、収支状況だけではなくて、設置目的や利用者の範囲あるいは地域特性等につきまして、総合的に判断することとなります。

また公共施設ですけれども、収支状況だけでははかれない、公共的な役割を担っているものと認識しております。

施設の整備に当たっては、庁内横断的に、政策面や財政面などからも多角的に必要性や効果等を検討しているところでございます。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

34番 松岡廣幸議員。

#### ○松岡廣幸議員

ご答弁をいただきまして、2問目させていただきたいと存じます。

今の政策局長のお話の中で、収支だけが全てではないと、目的もあるというようなことでございますのでね。

実は言いますと、このたびのその報告書というものを少し読ませて、読み込ませていただきましたというふうに言った方が分かりやすいかなというふうに思っております。

どちらかと言いますと、推進したいほうの、議連も作ってやってるわけですから、やっぱりやってほしいなあというように根っこにあるのは事実でございます。

そやけども、それらに対して、その調査なりがやっぱりなるほどなあというように形で上がってくれば、私らも、それはそういうことやなあここはやっぱりいいとこついているなあというところがあるんですけど。

ちょっとよく読ませていただきますとね、この祭礼に関する裁量を取り巻く課題というところの項目がございまして、これが本来の1番のメインの課題だったのかなというふうに思うんですけど。

どうしても、ここで書いているのに私らが大きく矛盾を感じてるのは、対象とする祭礼が1つではない。

だからいろんなところのいろんな神社のいろんな祭りがあるから、やっぱり選定方法や立地を検討する必要があるというふうに書いとってんですけど。それは実は平成15年に、やっぱりかなりの年月をかけて、屋台保存連絡会の皆さんやそういった方々が提案書を出すときに、はっきり言うてしまうと、姫路城周辺がいいのではないかといいふうに出しておられるわけなんです。

これはいろいろと祭礼の方針で、立地でもいろいろと、それを出すまでに様々な協議もされたであろうし。また、ここでっていうようなことについては、皆さん方が、大勢の自治会、大勢の祭り、大勢の神社の皆さん方が納得いった部分じゃないのかなあと。

そう考えると、これ何でそういうふうな書き方をあえてまたせないかんのかなというのが、私にしたらちょっと首をかしげてしまいました。

それとね、これはもう1つはまた、私もこなして地域別に見た地域の特性とかいうて書いてあって、こう否定をされてしまうと、また、穴が空くほど眺め回って、見させていただいたんですね。

なら地域別っていうようなことは、約13の、いわゆる地域、我々で言う地域整備協議会とか地域懇話会とか、そういうようなブロックに分けてあって、そのブロックで様々なアンケートを取っていらっしゃる。これ13のブロックで分けてるわけなんです。13のブロックで分けて、ここにも書いてあるんですね。市全体で共通した認識とは言い切れないと。姫路市の祭礼は地域資源として一定の誇り、愛着の対象にはなっているが、市全体で共通した認識とは言い切れないとこう書いてある。あ、そうな

んやというふうに思っ、これをまたずとこう、データが出てますんで、読み込ませていただきましたんですけれど。7ページなんですけどね。

これを見ると、確かに3つ選んでくださいと。15の項目に3つを選んでくださいと。

だから、どうしても、上のほうへ、姫路市民として誇って何ですかって言うたら、やっぱり海や山や川があって自然が豊かやなあというような格好のことが高かったり、または良好な住環境やというようなものが高かったりするんですけれど。

意外と私、びっくりしましたのはですね、祭りのほうがお城よりはるかに、これ高いんですね。

これ13あって、さすがにその一番最初に1位に祭りが来たのが、網干、広畑、飾磨、灘と。ここらは祭りどころやというのがあるんですけれども、あとの残った9つの自治会の中で、実を言いますと、中部第1とってこれがお城の近くやと思います。この近くの方が第8位やったんですね。

今度、西部、林田とか飾西のほう、そちらの方が実は11位ということで8位と11位と。

でまた、ここでお聞きになっていただいと、やっぱり北部っていうのはもう8位、9位、10位、わ一つかなというふうに思うんですけれども、実を言いますと、何と、後の姫路の、その2つの地域を外した全域で4位以上なんです。2位、3位、4位があと残った姫路の地域なんです。

それで今度、お城はどうかというふうに思いますと、お城は中部第1、いわゆるそのお城の本町68番地周辺の地域の皆さん方、これは当然1番なんですけれど、その次に2番がないんです。3番が今度また同じくその西部、その飾西とかその辺りというような格好のことがあって、あとは5番、6番、7番、10番というような格好で、姫路市全体で誇りに思うってということについての調査につきましては、やはり手前みそに見てるわけじゃないんですけれど、この数字を正直に、上から正直に見させていただいて、やっぱり、祭りどころ以外の人もやっぱり姫路といえれば祭りなんやなあ。お城よりは祭りやというようなところに、私も改めてびっくりしたような次第なんです。

だからそういうふうに考えると、なまじっか、この市全体で共通した認識とは言い切れないというふうな書き方に対して非常に残念に思いますし、これちょっと、きちっ

と端から端まで読んでくれてんのかなというふうに思ったりもします。

ですんで、そう考えますと、姫路城より上やったんやというような、単年度のあれかも分かりませんが、それでも大きくそう変わってないということからすればですね、十二分に姫路を代表するという部分と、それから文化的な意識としては、皆さん方が思っていたいてるなあ。

嫌いやという人もそら、当然何でも誰もそうですけど、いらっしゃるわけですからね。やっぱりそれを、わざわざしてガラガラしてあまり好きじゃないというような方も、多数いらっしゃるかも分かりませんが、そうはいえ、そう大きく関係のないところからもそれなりの支持を得るということがお城より大きかったということで、私自身もこれはぜひ、今日、報告も申し上げなあかんでしようし、多分そこまで細かい計算を、担当部署の皆さん方がやってはったのかなあということになったら、そこはちょっとクエスチョンがあるんですけれども。

まずは、この部分の見直しというか、もう1回ここをしっかりと見ていただく必要があるんじゃないかというようなことが1点あります。

それと、もう1つは、どちらかという前回の議会に、山本局長さんおっしゃっていただいた、これから、この基礎調査が出てきたら、議連もそうですし、また屋保連さんもそうですけれど、やっぱり様々に打ち合わせをしていくというような中です、ぜひ、どう言いますか、平成15年に屋保連さんが出されたこの部分につきましても、意外とシビアなことも書いておられるわけなんです。

というのが、やっぱり、リピーターというものが大切や。だから同じものをずっと飾りついたら、全然いつまでたっても来てもらわれへんよと、ずっと来てくれへんで、飽きてきてしまうよというようなことも、シビアに書いておられるわけやね。

だから、それはやっぱりこれから、これを推進しようという我々地域も、我々の地域の屋台を飾ろかって言うてるわけですから、そういう意味では、見に来た人が「何や、同じもんしか並んでないな」というような形にならないように、やっぱり推進の面で大きく協議したり、協力したりというようなことが必要じゃないのかな。

ですんで、あえて私自身がその平成15年に出されたのをご覧になりましたかというようなところは、その部分も

しっかりと当初から、やっぱり、収支というようなこと、とにかく来客っていうようなことも考えた上で、影の部分に対してもしっかりと当時から目を向けてですね、やっておられるというようなところにご理解をいただいて、それでそれらを集約して、その後を進めていただきたいというふうに思っています。

だから、ちょっと調査に申し上げたいんですけど、これはちょっと、きちっと見てもらわなあかんのちゃうのかなあというふうに思って、不思議な、その書き方に不思議に。いや、何かもうせえへんというのが先に来てるみたいな言い方やなという感じにも取れましたし、また、逆に細かく読み込んでいくと、やっぱりそういう、市民の皆さんの実際、文化っていうものに対しての認識っていうものもよく分かりやすく出てたと思いますんで。ぜひその点を酌んで、前へ進んでやっていただきたいというふうに思っておりますけれども。

それらを改めて、新しい事実を今日述べたと思いますんで、その上で、ちょっと局長のご意見を聞かせていただけたらと思います。

**○石堂大輔議長**

松岡議員に申し上げます。

会派に与えられた時間で、議員に与えられた時間で自由に使っていただいて結構なんですけど。

質疑の場ありますので、そこはご理解いただいでご対応いただきたいと思います。

**○石堂大輔議長**

山本政策局長。

**○山本 聡政策局長**

お答えいたします。

まず、祭りの、市民の祭りに対する思いと言いますか、そういうことでご意見頂戴しました。

数字だけ見ますと、ああいうような報告書の結果になっておりますけれども、私どもとしましても、市民の皆様の祭りに対する熱量っていうのは他都市に負けないものを持ってるというふうに認識しております。

まずそれが1点です。

それから、平成15年ですかね。屋保連さんからいただいた提案書、しっかり読ませていただいております。

今回の調査は、答弁でも申し上げたとおり、施設の整備の可能性について調査するものになっております。

これから、そういう施設整備も含めて、祭り文化の保存

継承をどういうふうにしていこうかということで検討してまいりますので、屋保連さんのご意見なんかも参考しながら考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

34番 松岡廣幸議員。

**○松岡廣幸議員**

お尋ねを、ではさせていただきます。私も説明ばかりになりまして失礼いたしました。

様々にこの本会議中にでもそうなんですけれど、収支バランスとかやっぱり新しい施設とかっていうような形のことのご意見が出ていると思います。

それでマネジメント課っていうところを抱えておられるのも局長のところやというふうに思います。その課を抱えておられるんですけども、でも、必要もしくは不必要、いる、いらないうっていうのは、時によって変わると。今まで必要とされた、それが時代によって要らなくなって、廃館に追い込まれたり、もうやめようかというような格好になったというようなことでございますので。

そういったことからすると、どうなんでしょう。姫路で祭りをやめるときが来るのかどうかというようなことよりも、永遠に続くというふうに考えてるんですけども、そういう意味では、文化顕彰というような考え方からしても、時代に応じて必要、不必要というのが出にくいと思ってるんですけど。

その辺りに対してはどのようにお考えですか。

**○石堂大輔議長**

山本政策局長。

**○山本 聡政策局長**

前回、本会議でご質問いただいたときもお答えしたんですけども、今回の調査でも結果出ておりますけれども、祭り文化の継承っていうのは非常に重要なことだというふうに認識しておりますので、そういった点も踏まえてどういうふうに継承していくべきかということについて、これから考えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

34番 松岡廣幸議員。

**○松岡廣幸議員**

ではそのように考えていただいて、引き続き、進めていただきたいというふうに思っております。

次の質問に入らせていただきたいと思います。

通告にも書かせていただきました、続いて、家賃「0」という書き方をあえてさせていただいたんですけど、道の駅についてお尋ねさせていただきます。

あえて分かりやすく家賃を取らないということで、家賃「0」と書かせていただいたわけですが、通常、一般市民の概念として、土地を購入して、その上に建物を建てて、それを企業に使用するというのであれば、当然のことながら、土地代金、建物代、様々な諸経費、銀行借入れがあれば金利負担等、これらを考えて利益を上げるためには、貸し付ける期間内前半の家賃で投資金額の全額を回収し、回収し終わって初めて原価ですから、それから後の期間の家賃でもって初めてもうかるという仕組みだと思っております。これは一般、社会のというような形。

で、当然のことながら費用対効果、収支比率とはこういうことを言うわけでございますが、47億円の巨費、巨額を投入する大事業に対しまして、DBO方式とはいえ、まずは収支バランスをいかがお考えかをお答えいただきたいと存じます。

その上で、1点目は、この事業の必要性、そして経済効果を分かりやすくお答えいただきたいと思えます。

また、土地及び建物代の償却についての考え方を、先ほど申し上げました市民目線の土地建物賃貸借の概念というものから、分かりやすくお答えをいただきたいと思えます。

また、この計画には、姫路城観光で来られた方々の半数のうちの75%が立ち寄りというふうにシミュレーションされておられました。いわば姫路城に車で観光しに来た方の37.5%が立ち寄りという予測であります。

そして、近隣の地域住民も利用されるということですから、この道の駅を利用すると予測される年間の姫路城観光客が何名か、それと姫路市の近隣住民側が何名利用する予測かお答えください。

また、365日で日割りをいたしますと、姫路城観光客がこの道の駅に1日何名が立ち寄り、姫路市民の近隣住民の方々何名が利用するという数字予測をお示しくください。

その上で、前面道路や近隣の道路渋滞、運営会社の都合での商取引の変更、また、仕入価格等の変更等を考慮いたしまして、47億円の巨額な市民のお金がどのような形で戻ってくるのか。この事業の受益者は姫路市民であるのか、はたまた観光客になるのか、具体的に、お答えをいただき

たいと存じます。

これで私の2問目とさせていただきます。

#### ○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

#### ○森 健スポーツ・道の駅担当理事

お答えします。

まず、道の駅の必要性につきましては、平成27年3月にグランドオープンを迎えた姫路城を中心に多くの観光客が本市を訪れ、観光シーズンには市中心部に至る道路で渋滞が発生しておりました。

来訪者の交通手段の約7割が自動車であることから、車利用者のトイレ休憩所や観光情報の提供などを行う施設が求められる状況に当時ございました。

そこで単なる休憩施設にとどまらず、地元産品の買物や飲食で楽しむことに加え、利便性魅力向上機能や交流機能を併せ持ち、地域の活性化の拠点となる施設となるような道の駅を整備することといたしました。観光客だけでなく多くの市民の皆様や地域の皆様が日頃から使う地域活性化の拠点として、また安全で安心して暮らせる都市に寄与する広域防災拠点として、本市の地方創生に大きく寄与する施設として整備をただいま進めているところでございます。

経済効果について、経済波及効果についてでございますが、令和6年10月時点の試算で、整備に係る経済波及効果48.8億円、それから、運営に係る経済波及効果、年約6億円。指定管理期間15年ですので90億円、掛ける15で90億円、合わせて138億8,000万円の経済波及効果があると試算しております。

続きまして、土地及び建物代の償却についての考え方でございますが、道の駅は公の施設として整備してまいりますので、民間施設のような整備費用を回収するという考え方はなじみませんが、整備後における運営維持管理につきましては、市の財政負担の軽減を図るために、公の施設であるんですけども、市は指定管理料を支払わずに事業者の売上げを充当することといたしまして、また事業者には約1%、売上げの1%を納付金として市に納付していただくというご提案もいただいております。

続きまして、道の駅の利用者数について、姫路城観光客と近隣住民それぞれ何名利用するのか予測を聞きたいということをおっしゃっていらっしゃいました。

令和3年度に基本計画を策定した際ですが、この当時の

姫路城の予測としては154万人を予測しております、そのうち、こちらの基本計画に書いてあるシミュレーションの中で、観光客がおおよそ50万人、市民の日常利用を合わせて90万人、合わせて年間140万人と当時は試算しておりました。

このたび提案を受けました運営事業者の試算では、利用者数ではなくてレジ通過者数、レジを通過する人数として120万人を試算されてます。6割強の市民の方が、先の答弁でもさせていただきましたが、6割強の方が市民利用で78万人、残りは観光客として48万人という試算でございます。

こちらのちょっと事業者の試算のほうを1日に来場者に直しますと、観光客の方が1,100人、市民利用の方が2,200人という計算になります。

それから45億がどう戻るかということなんですけれども、先ほど申し上げました経済波及効果が138.8億円という、経済波及効果がございます。

それに加えまして、このたび提案をいただきました事業者の方が姫路市に運営会社を設立してそのまま経営に当たるといっておっしゃってますので、市税の増収であったりとか雇用の創出といったことも、こちら考えられます。

そして受益者ですけれども、非常にたくさんの方が受益者になると考えております。

観光客、ドライバー、子ども連れなどのお客様をはじめとして、地場産品・特産品の生産者、こちら販売機会の増につながると思うんですが、それ以外にも買物や交流の場としてお使いいただけるように地域住民の方が受益者になったり、あるいはリムジンバスのバスベイスを作りますのでリムジンバスの利用者であったり、様々な方々、この道の駅に関わる、関係する方々が非常に多くいらっしゃるかと考えております。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

34番 松岡廣幸議員。

#### ○松岡廣幸議員

ちょっと別に2問目やらさせていただきます。

実はちょっと、私もやっぱり自分で商売をしてきましたんで、この見込数っていうことにちょっとクエスチョンがございましてね。

これ、姫路市の直近の部分、当然、データはちょっと古

いんですけど、平成31年、令和元年のデータから平成4年の基本計画やからというような格好で出しておられました。そのあとの直近でどうなんか、令和6年でちょっと調べさせていただいて、これはやっぱり世の中がそういうふうになるのかなという。

今まで、大概の質問で約7割が車で来るっていうようなこと、今、令和6年は6割でした。だから、逆に言うたらその分電車が増えて、ということは、ゼロカーボンみたいなことが進んでるのかな、いうふうにも取れたわけなんです。

そういうふうには世の中が変わってるのかなというふうに見ていくと、やっぱりそれにちょっと当て込んで、やっていかないかん。

ただ、役所の書き方としては、これはちょっと私も言うていいのかなと思うんですが、当時、道の駅は姫路城に来た人に対して、「道の駅みたいのがあったらどうしますか。寄りますか、寄りませんか。」言うたら75%の人が「寄ります」というふうに答えがありましたと。

それで75%の人が寄ってくれるというふうな感じで、姫路城へ来た人のうち車で来た人で、車で来た人の75%が寄るといようなシミュレーションというのは、ちょっといいように見過ぎじゃないのかなというふうには思ったわけなんです。

なかなか来た人が全部寄って、目算どおりいったらという格好のことやから、今日先ほどおっしゃった、まだその上で、その運営会社さんがその140万に対して120万人という形の見込みをしておられるという、何かその原因というか根拠というか、があればちょっと教えてください。

#### ○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

#### ○森 健スポーツ・道の駅担当理事

私の説明がちょっとすいません、不足していたかもしれません。申し訳ございません。

私どもが試算した場合には来場者数、つまり何人来るかということ計算しておりました。

先ほどの事業者の試算ではレジ通過者数、つまりレジを、お金を払う人の数を計算してます。レジ通過者数、どれぐらの計数かということがあるんですが、私の手元にございます運営計画がありますが、基本計画の中でも大体2.5、2.4。つまり2.4人に1人がレジを通過するという考

え方で私も売上げを計算しております。

事業者の売上げの計算の仕方は、前面の道路交通量と、圏域の周辺の人口、流動人口を見て売上げを出しているというふうに私、聞いております。

同じように、前面道路だけですけれども、売上げを試算してますと、私どもと基本計画の中では2つの手法で出してまして、1つはその姫路城の分と、それから前面道路の分と一応2つ出してございまして、そこはほぼイコールだったわけです。

ただ、事業者さんにつきましては先ほど申し上げましたとおり、独自のやり方がございますのでその中で出してこられたレジ通過者数が120万人ということでございます。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

34番 松岡廣幸議員。

#### ○松岡廣幸議員

いい数字が出てるといふふうに思います。いい数字といえどもうちょっと厳しいかなといふふうに私も思っております。

実は、計算をさせていただいて、こんないっぱい来るのかなと。

1つは、実は、姫路東インターを使う人たちがそこへ寄るんじゃないのかなあと。姫路西とか姫路南から西へ帰る人たちは、そっち回って来るのかなといふようなことから、ちょっと、当初の精いっぱい、いっぱいいっぴいのシミュレーションは、少し大きいもんじゃないかといふふうに考えておりました。

それともう1つはね、38校区に対して3か月に1回、1年に4回ぐらいは道の駅利用してくれる人違うかといふシミュレーション、これも出てます。ほんでこれも私はずいませぬ。これ人口で出しておられた、36万959人といふようなことやったんで。

これに対しても、いやそれでも多分地元の人、家族の買物、所帯の買物やから、所帯で考えないかんのちゃうかなと、世帯でね、要は家族で。

要するに、お母さんもしくはお父さんが置いてる野菜もんなやそんなんを買いに行くといふことやから、一般に住民の60%が行くといふことについても、ちょっとクエスチョンがありましたですね。

そやけども、今日のお話で、通過する、レジを通過するいふその120万人といふようなことに、大変びっくりをさ

せていただいております。

多分80万から90万かなといふような、これは勝手な私の計算やったか分かりませぬけれど。

もう一遍ちょっと私の聞き逃しがあつたらいかんのですけれど、その120万に対しての、それは経営会社の独自の考え方、運営会社の独自の計算といふことですか。

何かちょっと分かりやすく説明してもらえるものがあるんやつたら、教えていただきたいなと思います。

#### ○石堂大輔議長

森スポーツ・道の駅担当理事。

#### ○森 健スポーツ・道の駅担当理事

運営会社の計算方法は申し訳ございません、私どものほう、やはり内部の資料で、私も民間企業に勤めていたときも絶対それはもう門外不出のものだったので、お伝えはできないと思いますけれども。

ただベースとなっている考え方としては、前面道路の交通量、それから周辺の人口から算出しているといふことでございました。

それも周辺の人口も、平日の来る方、例えば近くから来る方は、近くといふのは、平日であれば近くの方でしょうけれども、休日になるともうちょっと遠くの方も来るだろうといふ考え方の下にご計算をされてまして、レジ通過者数百20万人をはじめていらっしゃる、そのような状況でございます。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

34番 松岡廣幸議員。

#### ○松岡廣幸議員

正直申し上げますと、役所の見込みの人数だけかなといふふうに最初思っていましたね。

具体的に、その企業さんがどれぐらい当て込んでるんだらうなあとといふようなところもあつて。

ただ、そのレジを通過するといふのがちょっと微妙な、結局そこでお金を落としてくれるといふ人たちがどんだけいてるかといふことやから、当初の役所の見込み140万人といふような数よりも、よっぽどレジを通過して、お金を幾らかでも払ってくれる人が1年に120万人もあるといふようなことは、大変すごいことやなあとといふふうに思っておりますけれども。

そこらについて、あまりやりもせず、さっきからできるんかみたいなことばかり聞いても仕方がないとはあ

るんですけど。

でも、ここが違うんやというね、特に、ずっと担当しておられて、道の駅でこれだけ120万人と言うたら、なかなか兵庫県下どこにもないんで、これが違いますというようなものを、もし答えられるものがあるんやったら教えてください。

**○石堂大輔議長**

森スポーツ・道の駅担当理事。

**○森 健スポーツ・道の駅担当理事**

要求水準書、いわゆる仕様書というほどでもないんですけども、相手にこれぐらいのものを作ってくださいというものをお示しする要求水準書というものがございます。

その中で、いろんな食堂であったりとか、あるいはその飲食であったり、あるいは物販の施設の割合なんかはもう企業のほうに任せてるんですけども。

この私、道の駅を作る、検討するという使命をいただいたときに一番最初に思いついたのが、とにかく、地元の人に愛される、そういう道の駅にしようと思ったんです。

僕、実は京都に住んでまして、そのときに錦市場によくばあちゃんの買物で、昔行ってたことがあります、最近っていうかその道の駅の担当になる前に、錦市場行ったとき、愕然としまして。

やはりこの地元の人に来ない。その後コロナになったら観光客も来ない。もう、本当に閉まってしまってる状況でした。やはり地元の人に来ないと回らない。エンジョイしていただけないような道の駅はあっても仕方がないなと思ったわけなんです。

それでそういう事業者さんが今回現れたってことは非常に私もうれしく思います。

ちょっとすいません、長くなって申し訳ございません。

千葉に視察に行ったときにですね、実はちょうどコロナの真ただ中のちょうどちょっとすぐ後ぐらいに行ったんですけども、実はその道の駅、営業をずっとしてたらいいんですよ。営業してたつてのはやはりその地域の皆様にやはりお買物していただきたいというので開けていたところ、観光客の方はほぼゼロだったのですが、地元の方でその道の駅を支えていただいたという形がすごく、私、感銘を受けまして、そういう地元で愛されるような道の駅にしたいなというのがございました。

それ以外にも広域防災規模拠点であったりとか、あるいはリムジンバスがここから発着するというようなそうい

うような機能も併せ持ってますので、非常に皆様、多くの方にご利用いただけるものかと考えております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

34番 松岡廣幸議員。

**○松岡廣幸議員**

私もちょっと担当者の方から、「くるくるなると」という説明をお聞きをしました。

全然、知らなかったんですけども、ホームページ上げさせていただいて、結構、びっくりしました。家内も見せましたんで、家内がびっくりして、「連れて行って」みたいなこと言われてしまったんですけども。

ただその中でね、1つ、いいものを売ってるっていうところと、地元の皆さんにかわいがっていただけるっていうところで、120万の数値が、すいません、私はちょっと否定的に捉えてて。

なかなか白浜のほうから、姫路東のインターを越えて北へ行ってしまうような恰好のことが、道路渋滞を考えるとどうなのかな、女の人って行くのかなみたいな感じのこと。

だから、ある程度の道路を越えて、そこまで到達するっていうような恰好のことが、どうなのかなというところがありましたんでね。

だから、逆に言うと、もうこれ以上の道路の整備っていうような恰好のことではないとは思んですけども。地域の人たちの、今おっしゃった、地域の人たちによりよく来てもらおうというようなことであれば、やっぱりそのアクセス道路というようなもの、今以上にいるっていうようなことはないんでしょうか。

**○石堂大輔議長**

森スポーツ・道の駅担当理事。

**○森 健スポーツ・道の駅担当理事**

道路の整備というような大きな話になってしまいますと、ちょっと私、そこまでは考えてないっていうのはちょっと言い方は乱暴かもしれませんが、やはりおっしゃるとおり、周辺地域の皆様にご迷惑をおかけすることになります。

渋滞がどれぐらいあるのか、そういったこともシミュレーションいたしまして、そこまで大きな渋滞にはならないという結果も、調査の中では出ております。

しかしながら、オープン当初はやはり多くのお客様い

らっしゃいまして、多大なご迷惑をおかけすることになる  
と思いますので、ここはやはり人の、運営会社等もそうで  
すけれども警備も含めて、もういろんな形で、できる限り  
皆様のお気持ちを和らげるような対策をさせていただき  
たいと考えております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

34 番 松岡廣幸議員。

**○松岡廣幸議員**

ありがとうございました。

3つ目の質問に行かせていただきたいと思います。

施設のマネジメント等につきましてお尋ねをさせてい  
ただきましたし、また、1 問目、2 問目で様々にお話を聞  
かせていただきました。

ちょっぴり「えっ」というようなところもあって、それ  
がうまくいくのであれば、ぜひいいことやなというところ  
も思います。

その中で、マネジメントを考慮するというような中で、  
片一方ではうまくいくとはいえ、やっぱり 50 億近いお金  
を投入するというようなことでございます。

ですんで、それだけの、市民の皆さんが喜んで使ってい  
ただけるようにしていかないかんといいところも  
ありますし、逆に言うと、それから考えますとね、ぜひ、  
政策局で今、例えば、最初の屋台会館の話ではございませ  
んけれども、今までの、例えばその、この月末に閉める書  
写の美術工芸館に、新しい道の駅に来る会社のあれだけの  
スイーツの新しいものが並んだとしたら、また違うお客さ  
んの出入りもあったんじゃないのかなと。

いや、スイーツを食べてきて、別に文化を見てもらえへ  
んって言ったら意味ないじゃないかっていうような考え  
方を持たれるかもしれませんけれども、牛に引かれて善光  
寺という言葉もございます。これ、またまた調べといてく  
ださい。なかなか深いなというような言葉なんですけれど  
も、いやスイーツ食べに寄ってこんなもんがあるんやとい  
うような形。

ですんで、そういう意味合いで言うと、これから作ろう、  
または作ってほしいというような事柄につきましても、そ  
の目的という、行政目的ということだけに、かかわらずに  
ね、そういったところも収支のマネジメントをちょっとで  
も上げるというような意味合いで取り込むというよう  
なお考えについては、どのようにお考えですか。

**○石堂大輔議長**

山本政策局長。

**○山本 聡政策局長**

お答えします。

公共施設については、やはり設置の目的とその効果、ど  
ういう効果を求めるかということだと思えます。

最初に申し上げましたように、何もその収支だけが全て  
ではないと。大切な目的を達成するために作るような施設  
も出てこようかと思えます。

ただ、効果を判定する中の 1 つとして、そういう収支の  
バランスであったり、そういうものがあるのかなと思っ  
ております。

収支を改善するためにどういうふうなことを考えるか  
ということだと思うんですが、そういう点ではやはり民間の  
アイデアなんかも活用することが 1 つの方法ではないか  
なというふうには考えております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

34 番 松岡廣幸議員。

**○松岡廣幸議員**

そういう意味でぜひ民間活力というか、これはこれで新  
しい行政の、これからの施設運営というか、施設建設とい  
う意味でもいいんじゃないのかなと。

つつい、補助金の絡みがあったりして、なかなかその  
使い方っていうことに対しての制限を受けやすいとい  
うところがありますよね。

だけど、それはそれであるんだけど、その、また附  
属機関というような形でもいいですし、それはそれでまた  
後で、業務するというような格好になってもいいんですけ  
れども。

より大勢の、いわゆる今の人におうた、やっぱり集客な  
り、または文化の伝え方というものが、あると思います  
んで、だからそういうふうと思うと、これから作る、もし  
くは作ってほしい、もしくは作っていかねばならない  
という、何もその屋台会館だけと違って様々なものが出て  
くると思うんですけれど、やっぱり最終的に誰も行かへん  
っていうのが、やめようかな閉めようかなという原因  
になろうかと思うんですね、目的を達成しましたって言  
ってしまったらあれなんですけれど。

けども、何かの形でそこへ引っ張って、それに触れる  
ことによって気づくっていう。

例えば小学校 6 年生で見に行ったらは何とも思わなかったけど、高校生で見に行ったら、これのすばらしいものが気づいたというような格好のことがあろうかと思えますんで、そういった面での、なかなか数値に表しにくいマネジメントなのも分かりませんのですけれど。

そういったことも加味して、これからの取組をしていただきたいなということを、最後ちょっとだけお答えいただいて、あれしたいと思います。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

施設の整備であったりですか改修であったりですか、マネジメント課中心にやっておりますけれども、民間企業に対するサウンディング調査ですとかそういうことも積極的に行っておりますので、そういう視点も大切にしながら、施設マネジメント、やってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

以上で、松岡廣幸議員の質疑を終了します。